

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	レジリエンス・スポーツセンター		
○保護者評価実施期間	令和7年1月22日	～	令和7年3月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 45人	(回答者数)	39人
○従業者評価実施期間	令和7年3月10日	～	令和7年3月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 6人	(回答者数)	6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	マンツーマンでの運動療育により、子ども一人ひとりに合った内容のプログラムを提供が可能となり、成功経験から自信につなげることができている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの希望に合わせて、個別レッスン・同室レッスンを分けている 子どもの得意・不得意を見極め、どうやったらクリアできるかを考えモールステップで成功につながるよう工夫している 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの支援内容を詳細に共有し、つながったレッスンにしていけるように更に職員の振り返り時間を確保していく 毎月の職員研修を更に充実させていき、誰もが高度な専門性を身につけ、知識や経験に基づいた支援を充実させていく
2	マンツーマン型の集団療育により、集団場面での苦手さがあるお子様にも、丁寧に対応して成功経験につなげることができている	<ul style="list-style-type: none"> みんスポ(小集団)や野球教室、サッカー教室、プール教室、その他イベントを開催している。 集団レッスンでもマンツーマンでスタッフが対応することで、集団場面での苦手さがあるお子様にもモールステップで成功につながるように工夫している 	<ul style="list-style-type: none"> 新人スタッフが加わる場合、暗黙のルール(子どもの活躍が引き立つような配慮や勝ち負けの配慮など)を事前に確認し、全員で共通認識を持ったうえで集団療育に携われるように引き続き情報共有していく
3	個別支援計画に基づいて、お子様一人ひとりに合わせた支援内容を考え、提供することができている	<ul style="list-style-type: none"> モニタリングで保護者様、お子様のニーズを聞き取りし、それに沿った個別支援目標を立てている 過去の支援記録・個別支援計画を一覧で見ることができると、支援前にはその内容を確認し、その日担当のスタッフが支援内容を組み立てて提供できている 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きモニタリングをしっかりと行いニーズをくみ取ることで、お子様に合った個別支援目標を立てていき、達成に向けて支援内容を提供できるように情報共有していく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	お子様の好きな種目が限られていると、プログラムが固定化してしまう場合がある	<ul style="list-style-type: none"> お子様に種目を選んでもらうスタイルのため、同じ種目を選択しがちになることもしばしばある お子様によって声かけの仕方によってはリクエストを受け入れづらい場合もあるため、スタッフ側の知識や事前情報が必要になってくる 	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画や過去の支援記録を見返し、同じ種目を選んでしまうお子様に関しては、スタッフが受け身になるのではなく、積極的にリクエストをしたり、お子様が意欲的に挑戦できるようなアプローチをしていく
2	集団プログラムの頻度を増やしてほしい、予約が取りやすくなしてほしいというお声がある	<ul style="list-style-type: none"> 元々個別療育へのニーズが高いため、個別療育との頻度のバランスを鑑みて現在の集団療育の頻度となっている プール教室は借りられる曜日や時間について施設の都合があり、特に長期休み期間は他の事業所との兼ね合いも出てくる 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者様のお声を踏まえて、みんスポやプール教室など特に人気の高いものの回数の検討をしていく 冬休みやゴールデンウィークなどのお休みの日に、親子レクやボウリングなどの特別イベントの開催を検討していく
3	時々支援者の空気が悪い、というお声が今回の自己評価アンケートで出た	<ul style="list-style-type: none"> 非常に恥ずべきこと。個別レッスンでは担当スタッフに責任が伴うが、サブスタッフとの連携が取れていないとレッスンの空気はもちろん質も悪くなってしまいます。コミュニケーション不足や意見の不一致が考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> まず職員でこの件を話し合い、今後どう対処するかを再確認した。各スタッフで意見の不一致があった際は、お互いの意見を尊重しながら折り合いをつけたり、日頃からコミュニケーションを取っていくことで空気感を良くしていけるように工夫する ハラスメント委員会や研修を開催し、「上司・同僚・後輩への言葉かけの仕方」を改めて学習する

事業所名	レジリエンス・スポーツセンター（放課後等デイサービス）					公表日	令和 7 年 3 月 29 日		利用児童数	45人	回収数	39人
	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応					
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	37	2		・2~3人はゆとりを持って入ることができます。 ・1人で活動する時はのびのびと体を大きく使って活動ができ、本人もののびのび活動に参加しています。 ・かなり広いほうだと思います	お子様の年齢によっては狭いと感じることもありますが、一人ひとりに合わせた運動を提案させていただければと思います。					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	39			・1人に対して2人配置していただいているので、感謝しています。 ・いつもスタッフ2名で対応していただき、手厚いと思います。 ・十分です。	今後もマンツーマンレッスンで、手厚く支援できるよう尽力してまいります。					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	35	4			レッスン中はスタッフが安全確保をして対応させていただきます。また、マットなどを活用し、転んでもケガしないよう対策していきたいと思えます。					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	37	1	1	生活空間？自宅のこと？狭いです	質問の説明ができずに申し訳ございません。事業所の生活空間となっております。内容が不明な点もより理解できるように工夫していきます。 ・今後とも安心して通っていただけるよう、掃除や除菌など引き続き行っていければと思います。					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	39			・学校の体育は出られないけれど、レジスポは楽しんで参加出来て嬉しです。 ・子どものことをよく見てくれて、保護者が気づかなかったことも教えてくれる。 ・本人の特性を理解して活動の中に取り入れていただけて、ありがたいです。	よりよい支援につながるよう、研修や日々の勉強を行っています。					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	39				プログラムに沿って継続してよりよい支援につなげていきます。					
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	39				保護者さん、お子さんのニーズに寄り添い、就学に向けて本人にあった計画を立て、しっかり支援できることを大切にしています。					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	38	1		こちらが提示した内容もわかりやすくまとめられていて、参考にしています。						
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	39			活動の密度、振り返りがある。それを踏まえて帰宅時・夕食時に、本人と成功体験の振り返りを行っている。	ありがとうございます。引き続き、レッスン終了後のフィードバックを大切し、しっかりお子様、保護者様のニーズに沿った支援をしていきます。					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	39			・幅広い年齢に合わせたプログラムを用意しています。 ・新しいチャレンジがあって、利用者もとても楽しみながら体を動かしている。年齢が違っても活動を通して社会性の成長促進が促される。	同じ種目に偏らないよう、お子様のニーズをくみとりながら他の動きや道具につなげていけるよう工夫していきます。また、他児との関わられるような活動も増やしていけるように努めます。					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域でのこどもと活動する機会がありますか。	19	13	7	・サークル利用で初めてのお友達との関わり方の反応をみる事ができました。 ・わからない。 ・個別療育なので必要性は感じていない。	個別レッスンは主体になっていますが、今後、交流ができる機会を検討していければと思います。					
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	38	1			丁寧な説明を心がけ、引き続き丁寧な説明を行います。					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	39				丁寧な説明を心がけ、引き続き丁寧な説明を行います。					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	38	1		毎月、テーマありの講習会兼保護者会が行われているので、時々参加させてもらっています。	ペアレントトレーニングや保護者向け研修会などは現在開催できていないため、開催できるように調整していきます。					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	39				職員による保護者様への声掛け、会議や個別相談時に情報交換し、引き続き共通理解が深まるように努めます。					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	39				コーチとしての立場で可能な限り有用な助言ができるよう努めます。					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	39				来所時の会話を大切にし、充実できるように努めます。					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	34	4		・保護者会に参加することで、参考になる情報を集めることができたので良かったです。 ・サークル利用で、兄弟参加もありとのこと楽しみしています。	月1回、テーマを設けて保護者懇談会を開催しており引き続き、開催していきます。					
	19	こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	39			子供の状態に応じて適切に対応して下さり助かっています！	利用の際に保護者様とお話させていただいております。改めて相談の受け入れができることを周知していきます。					
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	39				利用時に保護者様とお話させていただいております。引き続き、保護者様との情報伝達に努めます。					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	37	1		自分も目標達成したら月間レジスポに載せてもらう。と楽しみにしています。	毎月「月刊レジスポ」やHUGでの配信させていただいております。引き続き、配信していきます。					
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	38	1			個人情報に関しては徹底しております。改めて厳重な取り扱いをしていきます。						
非	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	34	4			職員全員で訓練内容は把握しており、定期的に訓練を実施しています。様々なマニュアルを気軽に見て頂けるよう、周知していきます。					

常時等の対応	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	27	11		わからない	個別レッスンの関係上、訓練は全体で実施することは難しく、保護者様にはその旨ご理解いただけるよう周知いたします。また、実施した際にはお知らせしていきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	39				安全確保を維持し、危険な要因は新たに対策を講じていきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	34	4		・怪我をしてないのでわかりません。 ・その機会がなく無回答。	ケガや事故が起こらないように、職員間で想定されることを共有させていただいています。
満	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	38	1			安心して通所できる環境を整えていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	39			・とても楽しみにしておりますが、母が連れて行けない場合があります。 ・2人利用中1人は楽しみ1人はやる気無しである。	楽しく体を動かし、自信を持って様々なことに挑戦できるように支援していきます。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		レジリエンス・スポーツセンター				公表日	令和7年3月26日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1		少し天井が低いと感じる		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	シフト上適切			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	視覚刺激は多いが、パーテーション等で刺激を減らす配慮をしている			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	毎日清掃している			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0				
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1				
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0				
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0				
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2		第三者委員はいるが、評価までは受けていない		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0				
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0				
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0				
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0				
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0				
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0				
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0				
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0				
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0				
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	0				
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	2	集団プログラムの前は全員で活動内容や配慮事項、緊急時の対応を確認している	必ずではない		
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	・集団プログラムの後は振り返りをしている ・メインスタッフ・サブスタッフで振り返りをしている	必ずではない		

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	会議内で情報共有している	分からない
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	3	保護者懇談会にセンターの職員をお呼びして情報共有、助言を受ける場を設けた	分からない
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	6		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0			
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	0		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0		

	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	保護者からの聞き取りで対応している	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	・事例をもとに話し合いをしている ・実際にヒヤリハットが起きた時、ビデオ映像をもとに改善点を話し合った	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0		